

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(令和 6 年度対象)

令和 7 年 8 月 22 日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	37
IV	おわりに	

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

令和 6 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」及び「第 2 期中津市教育振興基本計画」に基づき各種施策を推進しており、令和 6 年度は重点的な 26 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育厚生委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、令和6年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

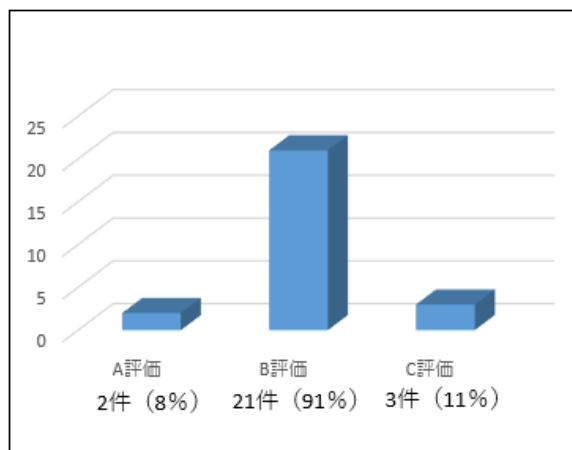
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	小・中学校教育の 充実	1 確かな学力の育成	3	C	学校教育課
		2 組織的ないじめ・不登校対策の 推進	4	B	学校教育課
		3 新しい時代に必要な総合力の育 成	3	C	学校教育課
		4 【新規】学校のあり方検討委員 会(仮称)の設置	3	C	教育総務課
	幼児教育の充実	5 幼稚園教育内容の充実	4	B	学校教育課
	安心安全な学校施設 の計画的整備促進	6 安心安全な学校施設の計画的整 備	5	A	教育総務課
	学校給食の充実	7 安全・安心な給食提供のための 環境整備及び地産地消の推進	4	B	体育・給食 課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	8 生涯学習推進基盤の整備及び公 民館、コミュニティーセンター の利用促進	3	B	社会教育課
		9 学習機会の拡充と学習効果の活 用	3	B	社会教育課
		10 新中津市学校の活用	4	B	社会教育課
	教育の協働の推進	11 協育による中津の子ども未来創 造事業の充実	3	B	社会教育課
	生涯学習センター「ま なびん館」の充実	12 生涯学習センター事業の推進	4	B	社会教育課
	産業教育の推進	13 体験学習・遠隔講座等を通した未 来を広げるキャリア教育の推進	4	B	学校教育課
		14 多様な体験の場の活用	3	B	社会教育課
	図書館の充実	15 図書館機能の充実	4	B	小幡記念図 書館
16 読書活動の推進		4	B	小幡記念図 書館	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	17	生涯スポーツの推進	3	B	体育・給食課
		18	競技力向上及びジュニアの育成	3	B	体育・給食課
		19	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	3	B	体育・給食課
		20	令和6年全国高等学校総合体育大会(インターハイ)受け入れ準備及び実施	5	A	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	21	文化施設の充実	4	B	社会教育課
		22	文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	23	文化財調査の充実と保護の促進	4	B	社会教育課
		24	文化財整備・活用の推進	4	B	社会教育課
		25	博物館を核とした中津市の魅力発信	4	B	社会教育課
	学びたい教育の まちづくり (教育委員会活動の充実)	教育委員会活動の充実	26	教育委員会の機能強化	4	B

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価 2件、B評価 21件、C評価は3件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

令和5年度と比較すると、A評価は1件増加し、全体的には成果が見られる一方で、C評価は2件増加（新規事業含む）しており、更なる取り組みが求められる状況です。

A評価となった施策「安心安全な学校施設の計画的整備」では、「中津市学校施設長寿命化計画」に基づき、老朽化対策及び教育環境の改善に努めました。令和6年度は小学校3校の屋外トイレと中学校1校の屋内運動場のトイレ改修を行い、また省エネルギー化及び教育環境の向上のため小中学校7校の屋内運動場の照明のLED化改修工事を行いました。

同じくA評価となった施策「令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備及び実施」においては、令和4年度より視察や会場の施設改修、実行委員会等大会準備を進め、受け入れ態勢を万全に整えたうえで本番を迎えました。大会ではダイハツ九州アリーナと中津体育センターにおいて男女のバレーの試合が行われ、来場者へのおもてなしにも力を入れ、成功裏に終えることができました。

一方、「確かな学力の育成」については、全国学力・学習状況調査において、令和5年度と比較して全国平均点以上の学校は増加したものの低学力層の割合が増加していることから、昨年度に引き続きC評価となりました。また、「新しい時代に必要な総合力の育成」に関しては、中学卒業時点での英検3級取得及び3級相当の英語力を有する生徒の割合が48.8%と目標値の50%にほぼ到達していますが、中津市標準学力調査における基礎力の全国比が低下していることからC評価となりました。令和7年度以降も引続き目標達成に向け、APU留学生との交流等様々な取り組みを行っていきたいと考えています。

さらに「学校のあり方検討委員会（仮称）の設置」については、「令和6年度に教育委員会としての方向性を決める」という目標に達していないことからC評価となりましたが、現在も検討委員会において、視察等を行い慎重に協議を進めており、令和7年度には教育

委員会としての方向性を決定したいと考えています。

その他の施策においても、来年度以降も引き続き各施策の目標を設定し、目標達成のために様々な取り組みを行ってまいります。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	小・中学校教育の充実
		B	幼児教育の充実
		C	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		D	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	E	生涯学習の推進
		F	教育の協働の推進
		G	生涯学習センター「学びん館」の充実
		H	産業教育の推進
		I	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	J	スポーツの振興
		K	文化・芸術活動の推進
		L	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	M	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分類			目標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力の育成	<p>「全国学力学習状況調査」で全ての小中学校で全国平均以上を目指す。</p> <p>⇒小学校6年生（国語・算数） 中学校3年生（国語・数学） 中津市標準学力調査で、各教科・学年のC層の児童・生徒の割合を減らす。</p> <p>ICT活用教育の推進・充実</p> <p>○「新大分スタンダード（ICTの効果的な活用）」の徹底・充実による授業の質の向上</p> <p>○問題解決型学習の充実による言語能力の育成</p> <p>○小・中連携による、子どもが主体的に学ぶ授業の確立</p> <p>○各種学力調査分析・活用による授業改善・補充学習・家庭学習の充実</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○全国学力学習状況調査で全国平均以上の学校数 小学校6年生（国語と算数の合計が全国平均以上の学校数12校/20校（深水小は6年生在籍なし）⇒達成率60%） 中学校3年生（国語と数学の合計が全国平均以上の学校数4校/10校⇒達成率40%）</p> <p>○中津市標準学力調査で、各教科・学年のC層状況 R5年度（23.2%～56.8%）⇒R6年度（23.2%～76.6%） C層が減少した教科（小…5/8教科、中…0教科）</p> <p>○ICT活用教育の推進 授業で端末を児童生徒に活用させている頻度（R5学校における教育の情報化調査＜大分県調査＞より） 【中津市】 ほぼ毎日 30.3% 週に1～3回 34.7% 月に1～3回 32.3% 使用していない 2.7% 【大分県】 ほぼ毎日 30.3% 週に1～3回 33.8% 月に1～3回 30.7% 使用していない 5.2%</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 学力調査結果は、全国平均以上の学校数については、小学校は12校と、令和4年度の11校から増加、中学校は令和4年度の5校から4校に減少している。令和5年度の小学校8校、中学校3校よりも増加したものの、令和4年度と比較した時には小学校では横ばい、中学校ではまだ回復しているとはいえない状況であることから、授業改善と確かな学力向上週間、AI型ドリルを活用した補充学習・家庭学習の取り組みのサイクルの徹底を今後さらに図っていく必要がある。また、若手教職員が増えていることもあり、スキルアップミニ研修や授業づくり研修会、SEカフェなどの研修の機会を保障し人材育成の取組を授業力向上、学力向上につなげていく。</p> <p>【目標達成に向けての具体的取組内容】 ○「みんな活躍授業」の推進と充実による授業の質の向上 ○問題解決型学習の充実による言語能力の育成 ○個別最適な学習の充実 ○教科の特質や学習内容に応じた iPad の積極的かつ効果的活用 ○AIドリルを活用した個別最適な学習の推進</p>	3	C	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	<p>いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を組織的に徹底し、組織的に対応する。</p> <p>いじめ解消率目標値 [R5年度] 85% [R6年度] 小学校 85% 中学校 90%</p> <p>不登校（不登校を理由に年間 30 日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指す。</p> <p>1,000 人当たりの不登校数目標値 [R5年度] 小学校 9.0 人 中学校 33.0 人 [R6年度] 小学校 9.9 人 中学校 39.0 人</p> <p>○自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進及び自治活動の充実</p> <p>○校内組織（いじめ・不登校対策委員会）の充実</p> <p>○「生徒指導提要」を活用した OJT や研修の充実による、学級・学年経営力、児童生徒指導力の向上</p> <p>○「人間関係づくりプログラム」の継続的な実施による未然防止の取組充実</p> <p>○SC（スクール・カウンセラー）、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）、地域児童生徒支援コーディネーター、登校支援員、教育支援センター「ふれあい学級」、フリースクール等、関係機関との連携強化</p> <p>○ICT の活用、教育支援センター「ふれあい学級」との連携強化による不登校児童生徒への学習支援の拡充</p> <p>○市教委連絡票を活用した早期解決支援及び学期始めの支援の取組充実</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○いじめの認知件数及びいじめ解消率について (R5 年度末) いじめの認知件数・・・1300 件 いじめの解消率・・・80.2% (小 81.0% 中 74.7%) (R6 年度末) いじめの認知件数・・・1342 件 いじめの解消率・・・70.1% (小 70.9% 中 65.3%) 目標に対する達成率は小学校は 83%、中学校は 73%</p> <p>○不登校(不登校を理由に年間 30 日以上欠席)の児童生徒 1000 人 当たりの不登校数について (R5 年度末) 小学校 22.8 人 中学校 56.8 人 (R6 年度末) 小学校 24.0 人 中学校 52.9 人 目標に対する達成率は小学校は 41%、中学校は 74%</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 【目標達成に向けての具体的取組内容】 ①自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進及び自治活動の充実 ②子ども理解のための家庭訪問等による日常的な家庭との連携 ③校内いじめ・不登校対策委員会を機能させた組織的対応の充実及び関係機関との連携強化 ④市教委連絡票を活用した早期解決支援及び学期始めの支援の取組充実 ⑤ICT の活用、教育支援センター「ふれあい学級」等との連携強化による不登校児童生徒への学習支援の拡充 ⑥「人間関係づくりプログラム」の継続的な実施による未然防止の取組充実</p>	3	B	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	1	A	新しい時代に必要な総合力の育成	<p>外国語・英語科における基礎力の確実な定着。 バランスの取れた英語4技能の育成。 中学校でのスピーキングテストの実施。</p> <p>○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と学力の向上を図る授業改善 ○ジュニアグローバルリーダー研修・ALT との英会話教室やAPU 交流等の充実 ○ふるさと学習や総合的な学習での地域探究学習の充実 ○CEFR-A1 レベル相当以上の取得生徒の割合の増加</p>
4	1	A	学校のあり方検討委員会（仮称）の設置	<p>学校のあり方検討委員会を設置し、中津市における学校のあり方（適正規模）について総論として意見を伺い、教育委員会としての方向性を決める。</p> <p>○検討委員会の設置（要綱の制定） ○検討委員会の開催（視察研修含む）</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○外国語・英語科における基礎力の確実な定着 ⇒中津市標準学力調査における基礎力の全国比 中1：-11.8P、中2：-12.4P</p> <p>○バランスの取れた英語4技能の育成 ⇒中学卒業時点での英検3級取得及び3級相当（CEFR-A1程度） の英語力を有する生徒の割合 48.8%</p> <p>○中学校でのスピーキングテストの実施 ⇒全学校で実施</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 【目標達成に向けての具体的取組内容】</p> <p>○1校1実践による授業改善に向けた組織的な取組</p> <p>○AIドリル Qubena の積極的活用</p> <p>○中津教育事務所管内3市の「垣根なき教育実践交流」</p> <p>○APU 留学生との交流</p> <p>○ジュニアグローバルリーダー育成に向けた短期留学事業の実施</p> <p>○英語弁論大会、英語プレゼン大会の実施</p> <p>○学校の壁を越えた効果的な遠隔学習の実施</p>	4	B	3	C	学校教育課
<p>○中津市学校のあり方検討委員会設置要綱を制定し、委員会を設置した。</p> <p>○令和6年度において4回委員会を開催し、うち1回は南部小学校及び城井小学校において学校視察を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 令和6年度に引き続き、視察も含めた検討委員会を開催し、中津市における学校のあり方（適正規模）について総論として意見を伺い、教育委員会としての方向性を決める。</p>	-	-	3	C	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
5	1	B	幼稚園教育内容の充実	<p>中津市版架け橋期カリキュラムの開発・完成。 幼保小の円滑な接続にむけての研修の実施。</p> <p>○架け橋期カリキュラム作成に向けた職員研修の実施（保幼小連携研修会） ○幼保小架け橋期カリキュラムの開発のための会議・作業部会の開催 ○保幼小の連携の強化に向けた計画的な情報共有の場の設定（保幼小連携協議会）</p>
6	1	C	安心安全な学校施設の計画的整備	<p>令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修等を行う。 省エネルギー化及び教育環境の向上を図るため、屋内運動場照明のLED化改修を継続して実施する。</p> <p>○中津市学校施設長寿命化計画の計画的な実行と進捗管理を行う。 ○学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修を実施する。 （令和6年度屋外トイレ改修予定：小楠小、真坂小、城北中/体育館：東中津中） ○小・中学校の屋内運動場照明LED化改修を実施する。 （令和6年度実施予定：三保小、今津小、上津小、下郷小、三郷小、緑ヶ丘中、城北中）</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○各園・各校の架け橋期のカリキュラムが完成</p> <p>○確実な引き継ぎとスタートカリキュラムの着実な実践と見直しが必要（小1プロブレム 令和6年度：3.7%）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>【目標達成に向けての具体的取組内容】</p> <p>○校長研修会の開催</p> <p>○小学校における公開授業の実施</p> <p>○幼保小連携に係る研修会の実施</p> <p>○保育園（所）・幼稚園における公開保育の実施</p> <p>○幼保小連携協議会の開催</p>	4	B	4	B	学校教育課
<p>○計画通り、小楠小学校、真坂小学校、城北中学校の屋外トイレの改修を実施した。</p> <p>○計画通り、小学校5校、中学校2校の屋内運動場照明設備のLED化改修工事を実施した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○国庫補助金等を最大限活用し、計画に沿った学校施設の長寿命化、予防改善、建替え等の整備を行う。</p> <p>○改修未実施の屋内運動場・武道場、屋外トイレの洋式化改修を計画的に実施する。（令和7年度は鶴居小学校、如水小学校、秣小学校、上津小学校、城北中学校、東中津中学校、今津中学校の屋外トイレ、鶴居小学校、秣小学校、緑ヶ丘中学校の屋内運動場のトイレを改修予定）</p> <p>○教育環境向上を図るため、トイレの洋式化改修と並行して、学校施設の照明LED化改修を段階的に進めているが、改修率は令和6年度末で42%と低い水準となっている。校舎の長寿命化改良工事や大規模改造に併せてLED改修を行うほか、屋内運動場のLED化改修を今後も計画的に実施する。（令和7年度は南部小学校校舎（長寿命化改良）、屋内運動場（鶴居小学校、如水小学校、和田小学校、深水小学校、真坂小学校、中津中学校、耶馬溪中学校）の7校を改修予定）</p> <p>○計画策定時点から、さらに老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないように注視することや、自然災害による損壊なども視野に入れ、実情に応じた計画の見直しを随時行っていく必要がある。</p>	5	A	5	A	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
7	1	D	安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進	<p>新共同調理場整備における民間活力導入可能性調査の結果を受けて、事業手法を決定する。</p> <p>新共同調理場の付帯事業の検討を行い方針を決定する。</p> <p>JAや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。</p> <p>新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。</p> <p>なかつ6次産業推奨品の活用に向け協議を行う。</p> <p>○新共同調理場整備検討委員会を開催して、新共同調理場の整備手法及び調理施設の付帯事業について、方針を決定する。</p> <p>○地場産食材の利用拡大や生産者の育成等に向けて市関係部局とJA、漁協、生産者等の関係機関と協議を行う。</p> <p>○なかつ6次産業推奨品の活用に向け、市関係部局と連携し情報共有を行いながら、関係機関と各共同調理場との協議の場を設ける。</p> <p>○地場産食材を活用した新献立を継続して開発する。</p> <p>○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土関心を感じさせる工夫に努める。</p>
8	2	E	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進	<p>公民館、コミュニティーセンターの利用促進。</p> <p>自主サークル活動の育成。</p> <p>公民館、コミュニティーセンター等、社会教育施設の整備。</p> <p>○社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と対策を練る。</p> <p>○住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発。</p> <p>○サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援。</p> <p>○耶馬溪公民館整備事業（公民館建設）。</p> <p>○その他老朽化した公民館の設備等の改修。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○民間活力導入可能性調査において VFM の算定、民間事業者への市場調査を行った結果を受け、内部検討委員会を開催し協議を行った。</p> <p>○内部検討委員会を開催し、付帯事業についての協議を行った。</p> <p>○JA のみではなく、農家と直接交渉を行い、新たな生産者の確保に向けた協議を行った。</p> <p>○なかつ 6 次産業推奨品の活用に向け、新たな商品の学校給食への活用について、市関係部局と現場の栄養士と協議を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○新共同調理場整備に向けて、民間事業者の選定を行い契約締結を実施する。</p> <p>○JA や漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。</p> <p>○新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。</p> <p>○なかつ 6 次産業推奨品の活用に向け協議を行う。</p>	4	B	4	B	体育・給食課
<p>○公民館、コミュニティーセンターの利用者 R5・・・145,442 人 R6・・・149,022 人</p> <p>○耶馬溪コミュニティーセンター10月1日竣工</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○各館長が公民館講座等の周知の方法（年間計画の配布等）について工夫できるように、館長会議の中に引き続き情報交換の場を設ける。</p> <p>○社会教育主事や職員が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて公民館利用者や講座生、館長、運営委員等の関係者と話し合う。</p> <p>○社会教育指導員が、魅力ある講座の企画や運営等の情報交換及び資質を高めるための研修をするために、社会教育指導員連絡会の機会を増やす。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
9	2	E	学習機会の 拡充と学習 効果の活用	<p>感染症等に対策を講じた生涯学習の推進。 学びを通じた社会に貢献できる人材の育成。 感染症等に対策を講じた「ふるさと学習」の推進。</p> <p>○公民館での学びを、学校支援活動の中で活かせる場を作る。 ○子どもたちが安全、安心に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 （福澤諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、八面山スケッチ大会・美術展・公民館独自講座 等）</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○学校支援活動支援者数 R5・・・1,665人 R6・・・1,566人</p> <p>○放課後支援活動支援者数（放課後子ども教室、学びのススメ） R5・・・214人 R6・・・203人</p> <p>○ふるさと学習参加者（子ども中津検定、論吉かるた等の青少年事業） R5・・・214人 R6・・・170人</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○コミュニティ・スクールが市内全ての小・中学校で導入されたことから、「地域とともにある学校づくり」「学校とともにある地域づくり」「地域ぐるみで子どもを育てる」気運を醸成できるように学校運営協議会で、学校、家庭、地域で取組む学校の教育目標及びグランドデザインについて熟議する機会を作ってもう。また、学校支援活動では、学校のみが得をするのではなく、地域にとっても得があるようにお互いがWIN-WINになるような取組を意識していき、地域の課題にも学校に考えてもらうように今年度の協育フォーラムで実施したように熟議できる学校運営協議会の会議方式を広めていく。</p> <p>○「ふるさと学習」に関する周知を市報やポスター等で積極的に行い、新規参加者を増やしていく。同時に、参加者が満足するプログラムを検討する。</p> <p>○各学校において「まなびんぴっくサテライト」を開催し、「ふるさと学習」のきっかけづくりを仕組んでいく。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	2	E	新中津市学校の活用	<p>市民講座の開催。 慶應義塾との共同研究の推進。 歴史資料の保存活用・公開。</p> <p>○慶應義塾等より講師を招聘し、市民講座を開催する。一般向けのほか、若年層向けの講座を行う。 ○不滅の福澤プロジェクトと連携して事業に取り組む。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行う。 ○市民の利用促進に向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行う。</p>
11	2	F	協育による中津の子ども未来創造事業の充実	<p>コミュニティ・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携促進。 感染症予防対策をとりながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進。 中津市PTA連合会と連携し「家庭教育ノススメ」を重要な目標の一つに位置付け、よりよい親子関係が築けるようにする。</p> <p>○コミュニティ・スクールを推進する中で、従来の校区ネットワーク会議との効果的な連携の方策を協育コーディネーターを介して把握し、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみを構築していく。 ○支援者や学校、児童クラブと十分に連携を図り、子どもたちの安全、安心を確保しつつ、学校支援活動、学習支援活動、放課後や週末の体験活動の充実を図る。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○令和6年度 利用者実績は、11,948人。(前年度比 +28.7%)</p> <p>○慶應義塾等より講師を招聘し、市民講座(全2回)を開催。 テーマ・開催日を歴史博物館企画展と連携することにより展示や講座内容をより深掘りできるようにした。</p> <p>○不滅の福澤プロジェクトと連携し、以下の取り組みを行った。 ・こども向け「やさしいまち歩きデジタルマップ」の製作に際し、専門的知識に基づく助言。 ・不滅の福澤プロジェクトの様々な事業における専門的知識に基づく助言やサポート。 ・慶應義塾大学との共同研究として、「小幡篤次郎関係資料」「小幡著作」「渡辺家資料」の整理。 ・歴史博物館や福澤記念館と連携した企画展による、市民への還元。 ・市報なかつ・市HP・各施設HPを通じ、イベント広報や、事業説明などわかりやすい情報発信。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○慶應義塾等より講師を招聘し、幅広い年齢層に向けた市民講座を開催する。</p> <p>○不滅の福澤プロジェクト以降も慶應義塾等との連携を継続し、人材育成・共同研究・学習交流等を進める。</p> <p>○偉人顕彰事業である小幡篤次郎・渡辺家の共同研究を進め、研究成果として展示・講座で市民へ還元する。</p> <p>○郷土の偉人 水島鍬也ゆかりの 神戸大学 出前講義を行う。</p> <p>○郷土の偉人 朝吹英二ゆかりの 朝吹真理子氏の講演会(磯田道史氏との対談)を開催する。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○「協育」フォーラムを開催し、学校、学校運営協議会委員、社会教育委員と共に、CS先進地の実践例を学ぶだけではなく、中津市内の31小中学校がCSを導入したことから中津市内でモデル地域として一番初めにCS制度を導入した今津中学校・今津小学校の実践事例発表(「連携・協働による地域とともにある学校づくりの推進」 発表者 中津市立今津中学校 校長 安部 友善 氏・中津市立今津小学校 校長 花崎 淳 氏)を学び合い、参加者自身の所属校区の学校、地域の課題、強味、弱み、可能な実践、不可能な実践等について熟議し合い、来年度の見通しにつなげることができた。参加者は80人。</p> <p>○中津市PTA連合会は、1学期：7月17日(今津小学校5年生)・2学期：12月13日(中津中学校1年生)・3学期：3月14日(豊陽中学校1年生)に、保護者が「ほめまち中津の『家庭教育のススメ』」を使って授業を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○昨年度に引き続き、社会教育課の職員も各学校の学校運営協議会に可能な限り参加し、現状把握に努める。</p> <p>○PTAが見通しを持ち、取り組みの成果が感じられるような工夫をすることを通して、保護者が喜びを感じながら主体的にほめまち事業に関われるように支援する。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
12	2	G	生涯学習センター事業の推進	<p>感染症予防対策、治療体制も整う中、生涯学習を推進し、学ぶ意欲を持った市民に対して、個々の学びが自分の生きがいにつながるような施設づくりをすすめる。</p> <p>学びから遠ざかっている市民、学ぶ場を知らない市民に対しては、積極的に情報発信を行い、学びを再開、スタートさせるきっかけをつくり、市民の学びを後押しする。</p> <p>○「まなびん講座」の受講者の確保のための魅力ある新規講座の開設。</p> <p>○中津市生涯学習大学の周知と新規受講者の確保。</p> <p>○サークル活動の活性化。</p> <p>○ニーズの把握による運営の見直し。</p> <p>○学習しやすい施設、設備の充実と日常の安全、安心な環境整備。</p>
13	2	H	体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進	<p>職場訪問・職場体験の充実。</p> <p>「中学生のハローワーク」の活用の推進。</p> <p>遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進。</p> <p>ICTを活用したキャリア教育の充実。</p> <p>○関係団体との積極的な連携</p> <p>○短期大学等との積極的な連携</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○年間利用者数 25,128人、昨年度 23,568人で、1560人増加。</p> <p>○まなびん講座 26講座（昨年度より2講座の増）・各種サークルの育成（29サークル）</p> <p>○まなびんフェスタ R7年3月6日（木）～8日（土）約800人参加</p> <p>○生涯学習大学祭 R7年3月16日（日）約500人参加</p> <p>○「学びを止めないまなびん館」「学びをはじめ『まなびん館』」を目指し、毎月広報誌を発行し、公民館を中心に掲示し多くの市民に触れるようにした。また、FBでその都度、まなびん館で行った事業の情報発信を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 受講者のニーズに応じた講座の開設と受講者が学ぶこと喜びを感じるスタッフの支援（まなびん刊などの広報誌を通じた広報やFBで活動の紹介）を行う。また、年度末に行われるまなびんフェスタと大学祭を合同開催にし、受講生同士の学びの交流を行うとともに、受講生の思いが生きる発表の場を作っていく。</p>	3	B	4	B	社会教育課
<p>○職場訪問・職場体験の充実 ⇒・職場体験（中学校対象） 実施校全10校、職場訪問2校</p> <p>○オンライン講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進 ⇒・ダイハツ工場見学21校（小学校対象） ・工科短大と商工会議所と連携した「ものづくり体験出前授業」15校</p> <p>○ICTを活用したキャリア教育の充実 ⇒市内全中学校でSOEM（中津市中学校生徒会意見交換会【オンライン】）を実施予定だったが、急遽中止となった。生徒会活動を中心に令和7年度は早いうちに実施予定。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 【目標達成に向けての具体的取組内容】</p> <p>○関係団体との積極的な連携（職場体験学習の受け入れ先の拡大や商工会・担当課・工科短大等の連携）</p> <p>○中学校における横のつながりの充実（中津市中学校生徒会意見交換会などのオンライン交流会等の充実）</p>	4	B	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	2	H	多様な体験の場の活用	<p>子どもたちが、勤労の尊さや生産の喜びを体得し、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような学校以外での多様な体験の場の提供。</p> <p>○「職人フェスティバル」の実施。 ○中津少年少女発明クラブの充実。</p>
15	2	I	図書館機能の充実	<p>安心して来館できる環境づくり。 市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上。 社会教育課などと連携し、近隣文化施設との導線づくりを図る。</p> <p>○施設や設備の経年劣化箇所の修繕や更新を実施し、利用者の安全性や快適性を確保する。 ○小幡記念図書館に防犯カメラを整備する。 ○図書館 DX を積極的に推進、また継続して実施する。 ○図書館講座や図書館コンサート、不滅の福澤プロジェクトを通して、図書館の新規利用者の獲得を図る。 ○中津市歴史博物館の特別展のテーマに関連した図書を展示し、施設の相互利用や読書の推進を図る。 ○エントランス壁面をアートスペースとして美術館に提供し、利用者が美術館に興味を持つきっかけをつくる。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○職人フェスティバル R5・・1,000人（有料ブース47、無料ブース27） R6・・1,000人（有料ブース51、無料ブース30）</p> <p>○中津少年少女発明クラブ R5・・19人 R6・・19人（うち第82回大分県発明くふう展でクラブ員の3人が「大分県知事賞」「大分県教育長賞」「大分県発明協会アイデア賞」を受賞。）</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○職人フェスティバルの魅力をSNS（Facebook）、たより（まなびん刊）、市報等で発信する。</p> <p>○中津少年少女発明クラブでは、子どもたちが試行錯誤し、課題解決的な学びができるようなスタッフ支援を行う。</p>	3	B	3	B	社会教育課
<p>○老朽化した空調設備の更新や研修室の舞台機構等の施設の修繕を行い、利用者の安全性や快適性を確保した。</p> <p>○小幡記念図書館に5台の防犯カメラを設置し、犯罪抑止や証拠保全、安心感の提供が可能になった。</p> <p>○新たに研修室や視聴覚室の貸館を電子申請できるようにした。</p> <p>○図書館講座と不滅の福澤プロジェクト関連事業を各4回開催、図書館コンサートも1回開催した。初めて来館したという参加者も一定数おり、図書館に足を運ぶきっかけづくりができた。</p> <p>○中津市歴史博物館や木村記念美術館の特別展示に合わせた関連図書、特別展示のチラシやポスターを掲示し、施設の相互利用や読書の推進を図ることができた。アートの展示も来館者の楽しみのひとつとして定着してきている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○現在の場所に移転開館して30年以上経過し、施設の老朽化が目立つ。利用者が安心安全に、また快適に過ごせるよう図書館施設や設備を計画的に修繕、更新し長寿命化を図る必要がある。</p> <p>○利用者の利便性の向上を図り、ニーズに沿った図書館運営を行うことで利用者の満足度を高める。どの世代からも図書館を利用したいと思われる取組みを行う必要がある。</p>	4	B	4	B	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
16	2	I	読書活動の推進	<p>家庭や地域、図書館における子ども読書活動の推進 学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進 イベント等を通して本の魅力、読書の楽しさを伝える 図書館の取組みの積極的かつ効果的な情報発信</p> <p>○おはなし会や赤ちゃん絵本事業を通じて乳幼児期から絵本に触れる機会を提供し、習慣づけることで読書活動を推進する。 ○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を密にし、子どもの読書活動の推進を図る。 ○不滅の福澤プロジェクトや読書週間等の読書イベント・図書館講座等で関連図書を展示、紹介することにより読書活動を推進する。 ○ホームページや図書館だよりなどで、イベント情報、新刊案内など読書推進に関する情報発信を行う。 ○第2次計画の進捗や課題を踏まえて策定した第3次計画に基づき、子どもの読書活動を推進する。</p>
17	3	J	生涯スポーツの推進	<p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。 様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やす。 定住圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。 ○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。 ○定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントを開催する。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○毎週月曜日の幼児向けおはなし会のうち数回を日曜開催に変更し、平日に参加できない方にも読み聞かせの機会を提供し読書活動を推進した。</p> <p>○学校司書と合同の「ブックトーク研修会」やボランティア研修会として DAN パネ団によるパネルシアターを企画するなど連携を密にすることができた。</p> <p>○来館が難しい方にも図書が届くように新たに開設した介護施設や障がい者施設に団体貸出制度の案内を送付した。</p> <p>○中津地区、三光地区の保育所やこども園、読み聞かせボランティアに絵本の除籍本の無償配布を行い読書活動の推進を図ることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○読書活動推進のため様々な事業やイベント等を実施しているが、アンケート結果から周知が行き届いていないことがわかった。これまでの市報や市立図書館ホームページ、中津市ホームページ、X (旧 Twitter) に加え、児童生徒対象の事業等については学校教育課と連携し保護者と学校の連絡アプリ「すぐる」で周知をはかるなど、対象に適した媒体を検討する。</p> <p>○現行の図書館ホームページでは、サイト内検索ができないなど必要な情報を利用者が得づらいつくりになっているので、リニューアルを検討する。</p>	4	B	4	B	小幡記念図書館
<p>○4月6日にはダイハツ九州アリーナにて改修工事完成記念式典を執り行い、またインターハイ機運醸成イベントとして地元の強豪チーム東九州龍谷高等学校女子バレーボール部と福岡大学女子バレーボール部をお招きして記念交流試合を行い約1000人の来場者が試合を観戦した。</p> <p>○第77回大分県民スポーツ大会（県北ブロック開催）において、9/9～9/11を主日程に開催され、総合開会式（ダイハツ九州アリーナ）では、地元中学生による吹奏楽の演奏やスポーツ少年団の協力、またアトラクションとして市民ミュージカルを執り行った。</p> <p>○慶應義塾大学体育会野球部合宿イベント事業については昨年に引き続き2月14日～17日まで合宿を行い、期間中には地元小中学生対象の野球教室や九州共立大学との交流試合も行われた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やす。</p>	3	B	3	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
18	3	J	競技力向上 及びジュニアの育成	<p>市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。</p> <p>○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」等の資格取得を支援・推進していく。</p>
19	3	J	市民ニーズに 応えるスポーツ 施設の整備や 多機能多目的 な施設利用	<p>市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高める。</p> <p>多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画していく。</p> <p>○市民要望の高い種目や競技に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用対してのルール作り等を行っていく。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促した。</p> <p>○10月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会、12月には「スタートコーチ」の講習会を行い、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○競技団体へは指導者資格の取得やスポーツ少年団への加入を推進していく。また、指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的実施し、研修の場を設ける。</p>	3	B	3	B	体育・給食課
<p>○利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕を実施。</p> <p>○中津東体育館 LED 改修工事を行った。</p> <p>○ダイハツ九州アリーナにトレーニング機器を購入した。</p> <p>○耶馬溪運動場改修工事を行った。</p> <p>○やまくにスポーツパーク体育館の排煙窓及び野球場照明設備修繕を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを行っていく。</p> <p>○市民のスポーツニーズに沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行っていく。</p> <p>○将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	3	B	3	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
20	3	J	令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備及び実施	<p>令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催に向け、関係団体と連携・協働を図りながら、効率的な大会運営を目指す。</p> <p>全国トップレベルの選手たちのレベルの高いプレーを観戦できることによる各競技種目の競技力向上や裾野の拡大、スポーツへの市民の関心向上を図る。</p> <p>○新たに高校総体専任の職員を係内に配置し、大会準備を進める。 ○中津体育センター床改修工事等施設改修を行う。 ○インターハイ機運醸成イベントの開催等歓迎装飾・広報啓発活動の推進を行う。</p>
21	3	K	文化施設の充実	<p>市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進。文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める。</p> <p>○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。 ○建設後45年経過（昭和54年竣工）している中津文化会館について、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。また、将来的な方針（建て替え・長寿命化）決定に向けた議論を進める。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○新たに高校総体準備室を設置し、大分県、日田市、大分県バレーボール専門部等各種団体と連絡調整を行い、大会成功に努めた。</p> <p>4月よりインターハイ機運醸成イベントの開催、各種契約事務、5月には第2回中津市実行委員会を行い、6月には中津体育センターの床改修及び遮光フィルム設置、予選グループ戦組合せ抽選会の準備を行い、また受け入れ態勢を整えるため、各関連部署との協力会議を行い、歓迎装飾・広報啓発活動や道路清掃、観光PR等協力を仰いだ。また駐車場の人員が不十分であったため、業務マニュアルを作成し、市職員に大会期間中延べ200名程度協力をお願いした他、市独自に看護師の増員を行う等受け入れ態勢の強化を図った。また大会期間中はバレーボール競技では初のリモートでの組み合わせ抽選会やパブリックビューイングも行い、観客対策にも努め、おもてなしに力を入れて取り組んだ。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○今後も、様々な全国規模の大会やイベント等の誘致に努め、各競技種目の競技力向上や裾野の拡大、スポーツへの市民の関心向上を図る。</p>	3	B	5	A	体育・給食課
<p>○文化会館については、必要な設備修繕を行い、幅広い年齢の利用者が快適に利用できるよう整備に努めた。 (消防設備修繕、雨漏修繕、空調機器修繕など実施) (舞台機構リミットスイッチ修繕、非常用発電設備修繕は R7 繰越)</p> <p>○木村記念美術館 絵画収蔵庫(南部小学校内)の空調用加湿除湿ユニットの故障等に対し、適切な修理を行い、市有財産の健全な維持に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化会館、木村記念美術館、リル・ドリームも含め、全ての関連施設において、市民が文化芸術に親しみ、発表の場として活用できるよう、施設の維持管理および充実に努める。</p> <p>○中津文化会館は築45年が経過し、老朽化による多額の改修が必要とされており、計画を見込んで突発的かつ緊急を要する対応も考えられる。</p> <p>○文化会館については、整備の必要性や優先度を十分に検討し、適正な修繕等の対応をしつつ、改修実績、今後の改修費用試算、他市状況、長寿命化、同規模および複合化の建て替えなど、あらゆる方向性を視野に情報収集や検討を継続する。</p> <p>○南部小学校に設置している絵画収蔵庫が校舎改築にともない使用できなくなることを見据えて、今後の会が収蔵の在り方や方針を検討する。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
22	3	K	文化芸術活動の推進	<p>国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。</p> <p>各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、質の高い芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用できるよう、情報の発信と活動の充実を図る。</p> <p>○文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者に「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プランの推進」を条件に附しており、市も協力して取り組む。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施するなど、事業のさらなる充実強化を図る。</p> <p>○市報やホームページ、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○文化会館、リル・ドリームにおいては、令和2年に新型コロナの影響により大幅に利用が減少していたが、不滅の福澤プロジェクト事業と連携したミュージカルや講演の開催など、指定管理者の運営努力等により、毎年、利用者数が増加（回復）している。</p> <p>○小幡記念図書館の視聴覚室において、10月に公演された市民ミュージカルのDVDを放映するなど不滅の福澤プロジェクトによる連携を関係機関と深めた。</p> <p>○歴史博物館では、「学問に凝る勿れー中津の社会、学問、学者たちー」や「お札になった福澤諭吉 1984-2024」など、不滅の福澤プロジェクトと連携した企画展を開催したほか、小幡記念図書館において「なかはく&小幡記念図書館コラボレーション展示～寺院・仏像の文化と芸術～」なども行い、市民への関連施設の周遊を促す企画も実施した。</p> <p>○木村記念美術館の企画展、「中津の版画-武田由平の蒔いた種-」では、関連イベントのほか、市民グループと協力して会期中に市内6か所のサテライト会場での期間限定展示も行った。</p> <p>○また、令和6年9月に逝去した「中山忠彦追悼展」においても、会期中に作品の魅力等を紹介するギャラリートークも実施した。</p> <p>○イベントや展示に際しては他機関との連携も活かし、市報・ホームページ・X（旧 Twitter）などの広報活動により市内外からの誘客を図った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化芸術の関連団体等との連携を深め、市民が文化芸術に触れ、体験する機会の創出に努める。</p> <p>○企画展に際し、市内の協力団体等の発掘に努め、文化芸術の振興活動を進める。</p> <p>○「学びの里なかつ」の推進を図るため、“いつでも・どこでも・だれでも学べる場の提供”を意識して企画展示や広報に取り組む。</p>	3	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
23	3	L	文化財調査の充実と保護の促進	<p>有形・無形・埋蔵文化財の調査・実態把握につとめる。 文化財保護の活動に市民の巻き込みをはかる。 歴史遺産を未来へ伝えるため、市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定める「文化財保存地域計画」策定作業を進める。</p> <p>○文化財の調査・研究を行い、調査成果を博物館企画展や調査報告書の刊行に活かす。 ○学校教育との連携や博物館活動、史跡整備等の機会を活かして、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。 ○「文化財保存活用地域計画」の令和6年度末の刊行を目指し、国への申請、認定手続きを行う。</p>
24	3	L	文化財整備・活用の推進	<p>各種文化財の整備活用を通して地域への誇りと愛着を育てる。 文化財の公開・活用・情報発信に努め、文化財の価値の周知をはかる。</p> <p>○令和6年末の「福沢諭吉旧居保存活用計画」策定に向け、策定委員会を開催、建物調査等を実施する。 ○長者屋敷官衙遺跡の整備を進めるとともに、市民に愛される史跡公園を目指してⅡ期工事の整備方針の検討を行い、国へ事業計画を提出する。 ○慶應義塾大学と連携した中津の偉人の調査をはじめ、各分野の調査研究の成果を、刊行物や展示、講座等を通じて、市民に還元する。 ○SNSやメディアを積極的に活用する。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○有形・無形・埋蔵・記念物等文化財の調査をすすめ、調査成果をもとに、ベッコウトンボを天然記念物に、湯屋文書 14 巻を有形文化財に、坂手隈城跡を史跡に指定した。6 年度は新たに県指定史跡長岩城総合調査委員会を設置し、発掘調査・文献調査等の総合調査を開始した。また、調査・研究の成果を活かした企画展等多数実施した。調査報告書等は 11 冊を刊行。</p> <p>○市内外の学校と連携し、「絵画作品展」や「とうろう展」を実施するとともに、博物館見学、体験講座、修学旅行、職場体験等の受け入れや出前授業等を行った。沖代条里土水路希少生物調査や縄文体験学習では小学生たちの参加を促した。長者屋敷官衙遺跡史跡公園は、市民が歴史を学びながら憩える史跡公園を目指した整備を進め、近隣の保育園や小学校が遠足に訪れた。また、「文化財に親しむ特別企画」などのイベントを開催した。</p> <p>○地域計画作成にあたり、文化財の保存活用に携わる各種団体や活用に関わる関連機関に説明を行った。11 月に文化庁に申請を行い 12 月 20 日に認定を受けた。本文及び概要版冊子を刊行し、配布を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化財の適切な保存や魅力的な活用のため、引き続き各分野の調査研究、及び文化財の保護に取り組むとともに、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。</p> <p>○市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等今後の実施計画を定めた「文化財保存地域計画」に基づき、中津市の文化財を未来へ継承するための取り組みを進める。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○福沢諭吉旧居保存活用計画策定にあたり、建物調査を実施、委員会を 2 回開催、地域住民説明会を経て予定どおり 6 年度末に計画書を刊行した。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡については、周辺遺跡を含む「古代ゾーン」の拠点として、遺跡の価値を活かすためのⅡ期整備の方針を決定し、国へ事業計画を提出した。また、周辺調査を継続実施した。</p> <p>○慶應義塾大学と連携して小幡篤次郎関係調査、渡辺家資料調査等の共同調査研究を行った。特別展「学問に凝る勿れ～中津の社会・学問・学者たち～」では、渡辺家資料調査の結果を公開し、小幡篤次郎関係調査の結果は、今後特別展等で公開できるよう調整を行った。また、企画展示に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催など、調査研究の成果を活かした企画を多数実施し、多くの市民が来館、参加した。</p> <p>○企画展やイベントについて SNS やメディアを積極的に活用し、来館者増への取り組みを行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○福沢諭吉旧居の修復・保存のため、「福沢諭吉旧居基本整備計画」の令和 8 年度策定を目指し、建造物の調査等を実施する。</p> <p>○永添相原地区に残る古代ゾーンの核として、長者屋敷官衙遺跡の隣地の公有化等のⅡ期整備を進める。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
25	3	L	博物館を核とした中津市の魅力発信	<p>調査成果を基にした魅力的な企画展開催。 観光部局や市内各館との連携を強化し、魅力発信を行う。 民間が運営に参加する参加型なかはくを目指す。</p> <p>○「不滅の福澤プロジェクト」の推進他、開館5周年を契機とした多彩な企画展や、事業を開催する。 ○学校教育との連携強化。 ○観光部局と連携して、情報発信や「三津同盟」事業を推進する。 ○民間が主催者側にたつ企画開催を推進する。</p>
26	4	M	教育委員会の機能強化	<p>市長部局との連携強化を引き続き行う 教育現場の実態把握と関係機関との意見交換を行う 教育委員の視察、研修機会の拡充</p> <p>○総合教育会議などの市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。 ○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。 ○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。</p>

達成状況	R5		R6		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○古代・中世の開発をテーマにした特別展、諸田地区の発掘調査の成果を紹介した企画展、エコール・ド・パリの作家たちを紹介した美術展、中津の学問の系譜を概観した「不滅の福澤プロジェクト推進」特別展など、バラエティーに富んだ企画展示を行った。企画展に関連したギャラリートーク、講演会、イベントの開催など、調査成果を基にした取り組みも多数実施した。また、開館5周年事業として、国指定重要無形民俗文化財豊前神楽を、神楽社5社により5週にかけてなかはくロビーで奉納した。</p> <p>○学校教育課と連携し、社会見学やまちなみ歴史探検等の博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れを行った。</p> <p>○三津同盟事業は、津山市洋学資料館、津和野町郷土館より講師を招聘して三津同盟締結記念文化フォーラムを開催したほか、津山洋学資料館の企画展「中津藩蘭学の夜明け」への出品協力を行った。観光部局でも互いの市町のイベントに出展するなど、交流が継続している。</p> <p>○お茶会、Xmas マルシェ、手作りワークショップ、お祭り展示など、市民主催の事業を開催した。</p> <p>○美術館では、市民グループと連携して武田由平をテーマとした企画展を開催したほか、年間を通じて美術鑑賞講座を実施するなど、多彩な事業を展開した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「学びの里なかつ」を推進し、多彩な企画展や、事業を開催する。</p> <p>○観光部局との連携を強化し、三津同盟締結5周年事業の準備を進める。</p> <p>○歴史と文化の拠点として、博物館、図書館、美術館、3館の連携強化を図る。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○令和7年2月19日（水）に総合教育会議を開催し、協議を行った。</p> <p>○令和6年7月1日～4日にかけて3日間（前期）、令和6年11月6日～11月13日にかけて4日間（後期）の日程で各小・中学校、学校支援センター及び幼稚園への訪問を実施した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○総合教育会議では、教育現場における喫緊の課題や、取り組みの成果など、様々な議題について協議や情報共有を行っていく。市長部局と教育委員会が共通の認識を持てるように連携を図ることで、課題に対して迅速な対応が出来る体制を構築していく。</p> <p>○今後も学校訪問を実施し、教育現場を取り巻く問題や課題を認識することで、教育行政の推進につなげていく。</p>	4	B	4	B	教育総務課

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況について所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

A 小・中学校教育の充実

・確かな学力の育成

全国学力・学習状況調査において、すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、小学校は12校、中学校は4校となり、令和5年度の小学校8校、中学校3校よりも増加したものの、中学校は令和4年度の5校には及びませんでした。全体的傾向としては、学力は改善の途上にあるとみることができましょう。しかし、中津市標準学力調査をみると、令和5年度に比べてさらに低学力層の割合が増加し、学力の2極化が一層進んでいます。今後、基礎基本の着実な定着をはかっていくとともに、継続的に低学力層の学力の底上げの取組みを進めていくことが不可欠といえます。現在、中津市で取り組まれている「みんな活躍授業」は、児童生徒の授業への主体的な参加を促すうえで注目すべき取組みといえます。今後も一層の普及・充実をはかっていただきたいと思います。授業におけるICTの活用も積極的に進められており、今後も教科の特質や学習内容に応じたiPadの積極的かつ効果的活用やAIドリルを活用した個別最適な学習の推進など、ICTを効果的に活用した授業改善の取組みを進め、確かな学力の育成につながるよう期待しています。

・組織的ないじめ・不登校対策の推進

いじめの認知件数は、1,300件を超え、いじめに対する認知が積極的になされていることがわかります。ただ、いじめの解消率は、小学校70.9%、中学校65.3%と前年をかなり下回る結果となっています。この背景として、いじめ認知が年度末に集中したことが挙げられています。いじめは、児童生徒の学習・生活環境を大きく悪化させる要因となります。学校として情報共有し迅速な対応に努めていただき、解消率100%を目指していただきたいと思います。一方で、不登校の児童生徒1,000人当たりの不登校数については、小学校は、令和5年度の22.8人から24.0人に微増し、中学校は56.8人から52.9人に微減しています。特に小学校は令和4年度の9.8人から令和5年度は22.8人に大きく増加して以降横ばいが続いています。不登校の原因は多様化複合化しています。教育支援センターふれあい学級との連携強化はもちろん、校内指導体制を充実するとともに、人間関係プログラムなどを取り入れて、不登校の未然予防にも取り組んでいただき、児童生徒の居場所づくり、学習機会の確保に取り組んでいただきたいと思います。

・新しい時代に必要な総合力の育成

中学校卒業時点で英検3級取得および3級相当の英語力を有する生徒の割合が48.8%とわずかに目標値の50%を達成することができませんでした。その背景には、基礎力の

不足が挙げられています。中津市標準学力調査における基礎力は全国比で、中学1年で-11.8P、中学2年で-12.4Pとなっています。4技能をバランスよく育成するために、各学校での授業改善はもちろんですが、ジュニアグローバルリーダー研修・ALTとの英会話教室やAPU交流等の充実など、多様な機会を用意し、中学生の英語力の底上げをはかっていただくことも必要です。こうした取組みをさらに広げ、グローバル人材の育成を拡充してほしいと思います。

・学校のあり方検討委員会（仮称）の設置

小・中学校において一定の集団規模が確保されていることは、児童生徒の成長や適正な学習環境を考える上で不可欠です。現状で、過小規模校（1～5学級）が11校（小7・中4）あり、さらに今後も少子化が長期的に継続することが想定されています。そこで、教育的な視点から少子化に対応した学校づくりのための方策を検討・実施するために、「中津市学校のあり方検討委員会設置要綱」にもとづき委員会が設置され、令和6年度は4回が開催され、うち1回は学校視察が実施されました。今年度の目標に「教育委員会としての方向性を決める」ことが挙げられていますが、今年度そこまでは至っていません。学校の在り方は地域に大きな影響があることがらであり。来年度も引き続き慎重に検討していただきたいと思います。

B 幼児教育の充実

・幼稚園教育内容の充実

「架け橋期」は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であり、各園・各校の架け橋期のカリキュラムが完成したことは、市の保幼小の連携にとって大変意義深いことがらといえます。これからは、教育現場への周知をはかること、幼保から小への確実な引き継ぎがなされ小学校でスタートカリキュラムが着実に実践されること、その後のさらなる改善のための見直しがなされることが必要です。小1プロブレムの出現率は3.0%から3.6%に微増していますが、架け橋期カリキュラムの完成など、幼保小の連携は昨年度以上に深まっており、今後、幼保と小の「接続」関係が充実していくことが期待されるところです。

C 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、令和6年度においても学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修が実施され、教育環境の改善及び省エネルギー化促進のため、屋内運動場のLED化改修工事も着実に実施されています。学校の安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないようにするとともに、近年深刻化する自然災害を見越した学校施設の計画的な整備が進められることを期待します。

D 学校給食の充実

・安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進

学校給食は、幼児児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、食に関する正しい

理解と適切な判断力を養う場として教育課程上重要な位置を占めています。令和10年2学期からの供用開始予定の、市内の4つの共同調理場を再編した新調理場では、「学校給食衛生管理基準」に対応した安全・安心な学校給食の提供が見込まれています。令和6年度においては、新共同調理場整備検討委員会での検討を経て、PFI手法が採られることになりました。民間のノウハウを活用しつつ効率的かつ効果的に展開されることが期待されます。また、学校給食における地産地消の取り組みは、子どもたちが「地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、それらの生産等に携わる者の努力や食への感謝の念を育む上で重要」といえます。令和6年度においては、新たに地元の生産者を確保したり、なかつ6次産業推奨品の活用に向け、令和5年度に続き、しいたけ粉や粉末緑茶、おいしいこめみそを学校給食に活用することが出来ました。このことは、子どもたちに郷土の特産品に対する理解を深めるとともに、郷土愛を育むことにつながると思います。

2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

A 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進

公民館、コミュニティーセンターの利用者数は、令和5年度の145,442人から令和6年度の149,022人へと4,000人弱増加しています。コロナ禍のなかで利用を控えていた高齢者の方々を中心に市民の皆さんが戻りつつあることがうかがえます。生涯学習センターや公民館、コミュニティーセンターでは、高齢者をはじめ、女性、就学前の子どもの保護者対象の講座や、地域のニーズ、実情に応じた公民館独自の講座などを開催されています。その他、市民の主体的な学習の場として、様々な自主サークル活動も盛んに行われています。利用促進の取り組みが一定の効果を挙げていることがみてとれます。耶馬溪コミュニティーセンターが新たに竣工しましたが、他施設においても利用者が安全安心して利用できるよう施設設備面の整備を進めるとともに、今後も、住民の思いやニーズに寄り添った魅力ある講座の設置や利用拡大に向けての広報活動の強化などに取り組んでいきたいと思えます。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

市内すべての小・中学校にコミュニティ・スクールが導入されるなかで、1,500人を超える市民が学校支援活動支援活動に、200名を超える市民が放課後支援活動（放課後子ども教室、学びのススメ塾）に参加されています。地域ぐるみで地元の子どもの育てたいという意識が元々強い土地柄ではありますが、生涯学習での学びを、学校支援活動を通じて子どもたちに還元したいという市民が多くおられるのは子どもたちにとって心強い限りです。学社融合の取り組みが非常にうまく進んでいるといえましょう。また、ふるさと学習についても、子ども中津検定、諭吉かるた等、多様な学習機会が設けられており、参加者の満足度も高く、リピーターも多数にのぼっています。今後も、ふるさと学習の一層の充実をはかっていただき、ふるさとに愛着をもち、そのよさを発信できる人材の育成に努めていきたいと思えます。

・新中津市学校の活用

慶應義塾等より講師を招聘した市民講座（全2回）を開催し、開催日を歴史博物館の企

画展と連携することにより参加者の学びを深める工夫がなされています。また、「不滅の福澤プロジェクト」との連携のもとで、慶應義塾大学との共同研究として、「小幡篤次郎関係資料」「小幡著作」「渡辺家資料」の整理が行われています。新中津市学校は、そのコンセプトである「学生や社会人が学習・交流に集う場」「慶應義塾との共同研究・連携事業をすすめる場」「中津市学校の花を継ぎ人材育成につなげる場」として市内の文教施設の中心的役割を果たしているといえます。利用実績も11,948人で前年比約3割弱の増加でした。今後も慶應義塾との共同研究を進め、それを広く市民に還元するとともに、学修交流施設として、広く市民の学びの交流を促進する場として機能強化に努めていただきたいです。

B 教育の協働の推進

・協育による中津の子ども未来創造事業の充実

青少年の健全育成において、学校、家庭、地域住民の総参加で子育てを進める、教育の協働体制づくりが積極的に進められています。今年度は、コミュニティ・スクール導入による、校区ネットワークとの連携が課題として挙げられ、コミュニティ・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携促進に向けて「協育」フォーラムが開催され、市内初のコミュニティ・スクールである今津中学校と今津小学校の実践事例発表が行われました。さらに、中津市PTA連合会と連携した「ほめまち中津の『家庭教育のススメ』」の保護者による授業を通じて、よりよい親子関係の構築が目指されています。

C 生涯学習センター「まなびん館」の充実

・生涯学習センター事業の推進

生涯学習センターは、「いつでも、だれでも、いつからでも」学ぶことができる市民の生涯学習の拠点であり、今年度、まなびん講座は昨年度より2講座増、29サークルが活動し、まなびんフェスタ、生涯学習大学祭も多数の参加者がありました。市民に対して積極的に情報発信を行い、市民の学びを後押ししようとしていることがうかがえます。年間利用者数は25,128人で昨年度比1,500人の増加でした。コロナ禍のなかで学びから遠ざかっていた市民が戻りつつあると思われます。特に高齢者は、体を動かさないことによる運動機能の低下や人やモノと触れ合わないことによる認知機能の低下、心理的な不安が加速し、それが新たな社会問題となっており、それを防止する役割も期待されるところです。今後も市民のニーズにこたえる学習機会の提供と広報に努めていただきたいと思います。また、予算上の制約もありますが、施設の老朽化への対応やバリアフリー化への対応も望まれるところです。

D. 産業教育の推進

・体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことで、体験学習を通じたキャリア教育を再開することができました。令和6年度は、中学校を対象とした職場体験は全10校で実施され、職場訪問も2校で実施されました。また、オンライン講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進として、小学校対象のダイハツ工場見学も21校で実施され、工科短大と商工会議所と連携した「ものづくり体験出前授業」も15校で実

施されるなど、さらなる充実化がはかられていると評価できます。来年度に向けては、市内全中学校で SOEM（中津市中学校生徒会意見交換会【オンライン】）の実施と「中学生のハローワーク」の再開と活用に向けた検討を進めていただき、自立した生徒の育成に向けた教育活動を進めていただきたいと思います。

・多様な体験の活用

働くことに対する関心や意欲が乏しい若者の増加が社会問題となっています。子どもたちが将来の夢や希望を抱き、望ましい勤労観、職業観を身につけ、自己実現を図るために、ものづくり体験や郷土の産業に触れる活動などを学校教育以外で推進することは非常に望ましいことといえます。「職人フェスティバル」は、子どもたちに実際に仕事やものづくりを体験させることにより、世の中には様々な職業があることを知らせ、仕事に対する興味関心を深め、正しい職業観を身につけることができる学校外の貴重な学習の場といえます。第 14 回目の令和 6 年度は、有料ブースを 4 つ、無料ブースを 3 つ増やし、多くの子どもたちが体験できるように努力したことは大いに評価できます。中津少年少女発明クラブも、身近なものから創作する楽しさや科学の不思議さを学ぶ講座を通じて、子ども自身が抱いた疑問に仮説を立て、検証していく過程を実感し、ものづくりの体験と郷土の産業に触れる場として貴重な場となったといえます。特に今回は、第 82 回大分県発明くふう展でクラブ員の 3 人が「大分県知事賞」「大分県教育長賞」「大分県発明協会アイデア賞」を受賞しており、子ども自身の達成感や自己実現につながったのではないかと思います。

・図書館機能の充実

小幡記念図書館は老朽化が課題として指摘されてきましたが、今年度、空調設備の更新や研修室の舞台機構等の施設の修繕が実施され、防犯カメラの設置など、利用者の安全性や快適性が確保されたことは評価される点です。研修室や視聴覚室の貸館を電子申請できるようになるなど、昨年度に続き、DX 化にも努め、利用者の利便性の向上をはかっています。ソフト面では、記念講演や「不滅の福澤プロジェクト」の関連事業、近隣にある木村美術館や博物館とのコラボ企画など、来館者が学びを深めることができるような特色のある企画が実施されています。エントランス壁面をアートスペースとして美術館に提供していますが、来館者の心を和ませる空間になっているように思います。今後も地域住民の情報拠点として、小幡記念図書館と 4 つの分館、移動図書館が協力して、市民が図書館を訪れたいような企画や取組みが拡充されることを期待します。

・読書活動の充実

スマートフォンの普及や SNS 等コミュニケーションツールの多様化等、情報環境が大きな変化を見せており、結果「読書離れ」や「活字離れ」が進んでいると言われます。しかしネットの情報は不正確なことも多く、本から情報を得ることの大切さを市民に広く認識していただきたいと思います。令和 6 年度は、おはなし会や赤ちゃん絵本事業を通じて乳幼児期から絵本に触れる機会を提供したり、学校教育では学校司書や読み聞かせボランティアと連携して子どもの読書活動の推進を図っています。一方で、社会教育においても、「不滅の福澤プロジェクト」や「読書週間」等の読書イベント・図書館講座等で関連

図書を展示、紹介することにより読書活動を推進しています。さらに来館が難しい介護施設や障がい者施設の方々にも団体貸出制度の案内を送付しています。まさに、あらゆる市民に対して、情報発信をしつつ、体系的に読書活動を推奨していることは、評価されるべきことだと思います。「第3次子ども読書推進計画」においてもさらなる読書活動の充実に努めていただきたいと思います。

3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

A. スポーツの振興

・生涯スポーツの推進

少子高齢化のなかで、スポーツを身近に楽しむ環境が少なくなっています。市民に様々なスポーツの機会を提供することは非常に重要です。その点で、5月の最終水曜日の「健康づくりの日」の施設開放は、幅広い市民にスポーツ参加のきっかけ作りにつながる取組みとして注目されます。令和6年度は、4月に、ダイハツ九州アリーナにて改修工事完成記念式典で、東九州龍谷高等学校女子バレーボール部と福岡大学女子バレーボール部の記念交流試合が行われ約1,000人の来場者が試合を観戦しました。9月には、第77回大分県民スポーツ大会の総合開会式があり、中学生による吹奏楽の演奏やスポーツ少年団の協力、またアトラクションとして市民ミュージカルの公演がありました。2月には、慶應義塾大学体育会野球部合宿イベント事業において、小中学生が野球教室に参加したり、九州共立大学との交流試合が行われました。今後も、多様なイベント開催を通じて、より幅広い市民にスポーツに触れる機会を設けていただくとともに、総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組んでいただきたいと思います。

・競技力向上及びジュニアの育成

スポーツの振興及び推進のために不可欠なスポーツ指導者やスポーツボランティアを育成するために、スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促しています。また10月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会、12月には「スタートコーチ」の講習会が実施され、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行っています。今後も指導者や保護者、関係者向けの研修の場の充実に努めていただきたいと思います。

・市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを実現するうえで、施設の整備は重要です。令和6年度は、中津東体育館LED改修工事、ダイハツ九州アリーナトレーニング機器の購入、耶馬溪運動場改修工事、やまくにスポーツパーク体育館の排煙窓及び野球場照明設備修繕が行われました。今後も、利用者のニーズに応えるような施設整備を計画的に進めていただきたいと思います。

・令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備及び実施

令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）において、中津市ではダイハツ九州アリーナと中津体育センターの2会場で男女バレーボール競技が行われました。事前の準備と関係者間の調整が行われ、大会期間中も万全の態勢で取り組まれ、大会期間中も来

場された 5 万人の方々におもてなしの心をもって対応され、大会は成功裏に終わったことは誠に喜ばしく思います。中津市にとって一大イベントだったと思います。関係者の皆様、お連れ様でした。

B. 文化・芸術活動の推進

・文化施設の充実

施設の老朽化が進行する中、市民が安全かつ快適に文化活動が行えるように、優先順位を決めて必要な整備が実施されています。令和 6 年度は、中津文化会館については、消防設備修繕、雨漏修繕、空調機器修繕など必要な設備修繕が実施され、快適に利用できるよう整備がなされました。木村記念美術館 絵画収蔵庫（南部小学校内）の空調用加湿除湿ユニットの故障等に対しても適切な修理がなされています。中津文化会館は建設後 45 年経過しており、将来的な方針（建て替え・長寿命化）決定に向けた議論を進めているのですが、木村記念美術館も老朽箇所が目立っており検討が必要と思われま

・文化芸術活動の推進

国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを進めるという方針のもとに、文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者の運営努力等により、毎年、利用者数が増加（コロナ禍の減少から回復）しています。木村記念美術館については、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施したり、市民グループから協力を得て展示を行うなど、事業のさらなる充実強化が図られています。市報・HP・X（旧 Twitter）による広報活動も盛んに行われています。来年度以降も、利用者のニーズに応じた活動が展開され、文化芸術活動を強力に推進していく拠点としての役割を果たしていただきたいと思

C. 歴史と文化の伝承

・文化財調査の充実と保護の促進

令和 6 年度も、文化財調査・研究が進められ、その成果をもとに、調査・研究の成果を活かした企画展等が多数実施されました。また、調査報告書等も 11 冊に及びます。また市内外の学校と連携し、「絵画作品展」や「とうろう展」が実施されるとともに、博物館見学、体験講座、修学旅行、職場体験等の受け入れや出前授業等が行われています。文化財の実物に実際に触れたり、発掘や保管、展示に携わる専門家のお話を聞く体験は、児童生徒の学校での学びを深めたり、彼らの郷土愛を育成することにつながります。「中津市文化財保存活用地域計画」が文化庁から認定を受け、今後の文化財を活かしたまちづくりを推進していく指針が示されたこととは、市の文化政策にとって画期的なことです。是非、多くの市民に計画を知っていただき、地域総がかりで計画を着実に進めていただきたいと思

・文化財整備・活用の推進

令和 6 年度には、福沢諭吉旧居保存活用計画が策定され、長者屋敷官衙遺跡Ⅱ期整備の方針が決定され、国へ事業計画が提出されるなど、順調に事業が進められています。慶應義塾大学と連携して小幡篤次郎関係調査、渡辺家資料調査等の共同調査研究が行われまし

た。研究成果は、特別展として公開され、また、企画展示に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催など、調査研究の成果を活かした企画が多数実施されています。これらのイベントは、SNS やメディアを通じて情報発信され、来館者の増加につながっています。文化財に親しむ機会の創出が積極的になされ、文化財を中津市のブランドカアップにつなげようとする取り組みも一定の効果をあげているといえましょう。

・博物館を核とした中津市の魅力発信

発掘調査の成果を紹介した企画展や美術展、「不滅の福澤プロジェクト推進」特別展など、バラエティーに富んだ企画展示が実施されています。加えて、企画展示に関連したギャラリートーク、講演会、イベントの開催など、調査成果を基にした取り組みも多数実施されるなど、発掘や調査の成果が積極的に発信されています。開館 5 周年事業として、なかにはくろビーで奉納された、国指定重要無形民俗文化財豊前神楽も大盛況であり、中津市の魅力を共有する場となったのではないかと思います。また、学校教育課と連携し、社会見学やまちなみ歴史探検等の博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れが行われており、学校の教育課程の一環のなかで、郷土の魅力を児童生徒が実感する機会が積極的に設けられていることは素晴らしいことです。令和 3 年より続く三津同盟も非常に興味深い取り組みですが、今年度も三津同盟締結記念文化フォーラムが開催されたほか、津山洋学資料館の企画展「中津藩蘭学の夜明け」への出品協力や、観光部局を通じて互いの市町のイベントに出展するなど、交流を継続するなかで、中津市の魅力がしっかりと発信できているといえましょう。さらに、博物館において市民主催の事業を開催したり、美術館で市民グループと連携した企画展を開催するなど、まさに民間が運営に参加する「参加型なかはく」を通じて、魅力の発見や発信につながっているといえるでしょう。

4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

A. 教育委員会活動の充実

・教育委員会の機能強化

総合教育会議においては、①NEXT GIGA に向けての取り組み、②中津市の不登校の現状と支援の取り組み、③中津南高等学校の耶馬溪校の振興対策「全国募集」について協議・情報共有が行われました。教育委員会が市長と緊密な連携をとり、地域住民の意向を反映した教育行政の推進が図られています。また、教育委員及び教育長、教育部長が小・中学校及び幼稚園を訪問し、現状や各校が抱える課題を教育委員会として把握する取り組みがなされています。教育委員会は、市長と連携しつつ、教育現場の課題をしっかりと把握、共有し、教育行政に対する責任を果たしているといえます。

総合知見

各施策の評価を踏まえて、総合知見を述べたいと思います。

令和 5 年度は、長く続いたコロナ禍が明け、市民の皆様の学習意欲の高まりとともに、学習活動や利用者数がコロナ禍以前の水準に近付いてきました。そして令和 6 年度は、多

くの事業がさらに充実していくなかで、市民の学習意欲や活動はコロナ禍前を超えつつあるといえるでしょう。

そうしたなかで課題として挙げられるのは、学校教育の状況です。児童生徒の学力・学習の状況についてしてみると、すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、それを達成している学校が小学校は12校、中学校は4校であり、令和5年度よりも増加し、全体的には改善傾向にあるといえましょう。しかし一方で、中津市標準学力調査結果で示されたように、学力の2極化も進んでいます。低学力層の学力の底上げが喫緊の課題といえます。

今後、学力の底上げをはかる上で、3つの取組みが注目されます。一つ目は、市内の小中学校で取り組まれている「みんな活躍授業」です。教師が提示したキーワードをもとに授業の「課題」を全員がつかみ、「学び合い」の場面では、全員が考えを表現し、「まとめ」もみんなで導き出すなど、児童生徒全員の授業への主体的参加を促している注目すべき取組みといえます。この実践をすべての学校に広げ、子どもたちの学習に対する関心意欲を高めていくことは、学力の底上げにとって非常に重要であると考えます。二つ目は、授業におけるICTの積極的活用です。教科に応じてiPadを活用したり、AIドリル等も活用するなど、ICTを活用して基礎基本の習熟定着を図る実践が組織的に行われており、この取組みも学力の底上げには有効な手段となりうると考えます。三つ目は、地域の方のご支援です。中津市では多くの地域の方がそれぞれの専門性を活かして、学習サポーターとして学習支援に参画されています。こうした地域の皆様のご支援も、児童生徒の学力向上に確実に資するものと考えます。

次に課題として挙げられるのが、施設・設備における安全・安心の確保です。学校施設については「学校施設長寿命化計画」にもとづき、改修が着実に進められています。また、学校給食については令和10年2学期からの供用開始に向けて、4つの調理場を再編した新調理場が災害リスクの低い高台に建設されることになっています。一方で、生涯学習に関連した公民館、コミュニティーセンター、芸術文化施設やスポーツ関連施設についても、築年数がかなり古い施設・設備については、修繕や改修がなされています。また、今年度、耶馬溪コミュニティーセンターが竣工し、全面バリアフリーで、市民に使いやすい施設となっています。

このように中津市では、施設・設備については計画的に修繕や改修、建て替えが進んでいます。今後も市民が安心・安全に学びを深めたり、スポーツに親しむことのできる環境づくりに邁進していただきたいと思います。具体的には、老朽化の進む施設・設備における安全点検等の強化に努めていただくことで、思いがけない事故の防止に努めていただきたいと思います。また、激甚化する自然災害を見越した施設設備の整備も、学校や公民館、コミュニティーセンターなどで進めていただきたいと思います。さらに、バリアフリー化やDX化など、利用者に寄り添った施設整備を進めていただきたいと思います。たとえば、コロナ禍を経て、生涯学習を再開された方のなかには高齢者も多くいらっしゃいます。施設設備面で高齢者や障がいのある方々が学び、活動しやすい環境づくりに努めていただきたいと思います。

生涯学習や文化・芸術活動・スポーツの推進については、昨年度に続き、「不滅の福澤プロジェクト」や「三津同盟」などを核にした様々な企画が、学校教育と連携もしつつ展開され、地域の魅力を発信し、市民の学習活動を支援していることに非常に魅力を感じま

した。また、博物館と美術館、図書館が連携して、コラボ企画を実施し、参加者の学びを深めていこうとされている取組みも素晴らしいと感じました。スポーツに関しては、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が、無事、開催され、成功裏に終わったことは誠に喜ばしく思います。今後も、各施設が有する資源を活用して、市民の文化・芸術・スポーツ活動の支援や、郷土に対する愛情を高める機会につなげていただきたいと思います。

教育委員会活動の充実については、総合教育会議において市長と教育委員が緊密な連携をとり情報共有が行われています。今後とも、教育委員会におかれましては、教育現場の課題を把握・共有し、教育行政に対する責任をしっかりと果たしていただきたいと思います。

IV おわりに


『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

令和６年度においては、４項目を施策別基本目標、２６項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDC Aサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

